

伊勢市統計レポート



統計データ活用のすすめ

伊勢市の統計数値を集計し、その結果を令和4年3月24日に市勢統計要覧として、刊行しました。この統計要覧は、伊勢市の自然、人口、経済、教育など各分野にわたる基本的な統計資料を総合的に収録し、市勢の現況と推移を明らかにしようとする資料として公表しています。

今回は、対話形式で、統計の重要性、統計データをなぜ使用するのか。データを読み解く力がどうして必要について、見ていきましょう。

統計高校の統計部に所属している「りつこ率子さん」と「まなぶ学くん」が市勢統計要覧の結果について話しています。



そもそも、なぜ伊勢市は統計要覧を作成しているの。

市がどのような状態かを客観的、定量的にわかりやすく示すために、毎年1回年度末に公表しているよ。また、社会や経済などのさまざまな状態を知り、行政施策の基礎資料のひとつとして、活用されているの。



たしかに、データばかり記載されているけど、数字だと増えたり、減ったりなど、わかりやすいね。統計要覧は重要な役割を果たしているんだね。

さらに、数字だと客観的に表現できるし、説得力が増すこともあるのよ。データを前提にすると、今後の予測立てや、その検証にも使えるよ。



データで社会を知ることができるし、データで仮説を立てることもできる。興味が湧いてきた。

今は、インターネットの普及によりデータがより手軽に身近になり、パソコンやスマホ等で誰でも見るできるようになったね。



たしかに、他のデータを簡単に見ることができれば、比較検討したりすることも重要な要素だね。

でも、数字や統計データが社会や経済などのさまざまな状態や仮説を語ってくれるわけではないわ。



？ どういうこと。

例えば、伊勢市の人口を見ている表面上の数字だけ見ているとダメなのよ。もっとわかりやすく説明したり、他と比較するために、今回は、伊勢市の人口を100人でみた場合の表を作ってみたよ。



○令和2年伊勢市を人口100人でみたら

人口について	▼性別は？	▼年齢は？	(注)
	男性 47.4人	0歳～15歳未満	11.7人
	女性 52.6人	15歳～65歳未満	56.1人
		65歳以上	32.2人
		※そのうち75歳以上	17.2人

(注)各年齢人口の割合は、不詳を含まない総数を分母としている

(資料：令和2年国勢調査結果)



こうみると、65歳以上の方は32.2人と多い印象を持ったよ。それに、加工や整理をするとわかりやすくなるね。

数字を眺めているだけではなくて、わかりやすく、身近なデータに置き換えてみたり、データを加工・整理することが大事だよ。次も同じように人口動態のデータを伊勢で起こる一日の出来事(一例)として、表にしてみたよ。



○令和2年伊勢市で起きた一日の出来事(一例)※住民票、戸籍簿による人口動態

人口について	○出生・死亡は？	(注)
	出生者数 2.08人	死亡者数 4.26人
	○引越しは？	
	転入者数 9.28人	転出者数 10.38人
	○婚姻関係は？	
	婚姻件数 1.60組	離婚件数 0.49組

(注)各数値を365日で除して算出している

(資料：戸籍住民課)



1日あたりで見ると、およそ3人減っていることがわかる。これを何倍かすると、将来の人口予測に使えるのかな。

この統計データだけでは、要素が足りなくて、将来人口予測には向かないよ。データの特徴や何について調査した統計なのかをしっかりと確認する必要があるわね。



統計データを適切に用いて、わかりやすい形に加工したりするとインパクトは大きいけど、データの特徴には注意をしたいね。

【結論】

統計データが身近にある時代だからこそ、統計データの重要性が高く、データをわかりやすく加工したり、データを読み解く力が求められている。

今回取り上げたデータ以外にも、市勢統計要覧には、様々なデータが公表されています。詳細は、伊勢市ホームページからご確認いただけます。